市の鳥
クマゲラ（ノロ川流域で）

初夏、新緑の奥森吉

原始そのままの森吉山の魅力を紹介

クマゲラの棲むブナ森と300種もの高山植物が訪れる人を魅了

森吉山（1454m）は、秋田県中央にそびえるアスピーデ・トロイデの複式火山で、標高1000m以上の外輪山数座に囲まれた独立峰です。山頂からは鳥海山をはじめ白神山地、八幡平の山々など北東北の名山、また男鹿半島や日本海の大パノラマを望むことができます。

山腹はブナを中心とする広葉樹に覆われ、山頂にかけアオモリトドマツの原生林に変わります。6月から9月にかけては三百種ともいわれる高山植物が可憐な花を咲かせ「花の百名山」の一つに数えられています。

また、小又川の支流ノロ川流域にクマゲラの棲むブナの森として、森吉山国設鳥獣保護区特別保護地域（約1170ha）に指定されており、森吉山麓高原の展望台から全域が眺望できます。

このように貴重な自然が残っていることなどから森吉山から柴倉岳、太平湖から立叉渓谷周辺までは森吉山県立自然公園に指定されています（昭和43年）。

森吉山は、夏の高山植物、秋の紅葉も見事ですが、雪消えとともに訪れる新緑の季節も魅力がいっぱい。ブナやイタヤカエデ、ナナカマドなどの若葉が目を引きつけ、林床の可憐な植物群が心を癒します。

登山道の整備、また最近では阿仁のゴンドラ運航により容易に貴重な自然に触れ、滝や渓谷の雄大な景観を目にすることができるようになっています。

多様な動植物をはじめ豊かな生態系が残る原始そのままの森

山麓一帯には、多様な鳥や動物も生息しています。ある調査では小又川流域及び森吉山麓にはクマゲラや鳥類91種、哺乳類26種をはじめ139種類もの野生動物が確認されています。

自然の恵みも豊か。山菜やキノコ類、そして周辺の渓流ではヤマメやイワナなどの魚類が古来より地域住民の食生活に欠かせないものとなってきました。

阿仁地区で伝承されてきた「マタギ」も、山の幸豊かな森によって生まれたブナ帯文化の一つです。

江戸時代の紀行家・菅江真澄（1754－1829）は、天明五年（1785年）から文政四年（1821年）まで八度も森吉山麓を訪れ、景観や風俗などの絵図、日記などを残しています。これも森吉山に育まれた特有の自然や文化が、真澄を引きつけたからかもしれません。

残雪と新緑の森吉山麓

森吉山の登山道の一つ「ヒバクラ岳」コースの途中にある「立川展望台」から見た眺望。「馬の背」と呼ばれるヒバクラ岳に連なる峰とその北側に広がる雪渓をキャンパスに新緑の原生林が圧倒的な景観を生み出しています。

ブナ

ミズナラ

ナナカマド

トチノキ

イタヤカエデ

森吉山の中腹に生育する代表的な樹木の若葉